

祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響き、あり

台風十号、報道に踊らされ事前に十分の準備をしました。が、思ったほど強力さを感じませんでした。

ただ風は強く、夜半の暴風の音にドキドキしました。暴風で被害を受けられたお宅もあつたようです。お見舞い申し上げます。

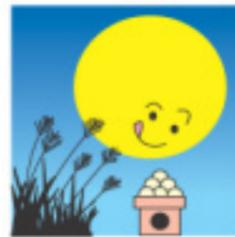
当山の七日の朝、境内地の木の枝や葉っぱの散乱状態は目を覆うほどでした。八日には仏参が三件ありましたので、掃除を七日中に終わらせなければならず、七日午前九時半過ぎから夕方六時まで坊守と境内地の掃除に追われました。散乱した木の枝と葉っぱは主に桜といちようのものでした。境内地を見回すと八月上旬から咲き始め、もう少し楽しめるかなと思っていた百日紅の花も暴風のため残り少なくなっていて、諸行無常を感じたことでした。

さて、その諸行無常は『平家物語』の冒頭に次のような華麗な文体で詠われ、今の時代の私たちに広く知られるようになりました。

祇園精舎の鐘の聲
諸行無常の響きあり。
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理をあらはす。
奢れる人も久しからず
唯だ春の世の夢のごとし。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で自粛生活がすすめられ、おかげで以前に買い求め「積ん読」状態だった書籍を読む機会が増えました。その書籍の中で知ったことです。祇園精舎はインドの舎衛城の郊外にあつたお釈迦さまとお弟子たちの説法と修行の道場でした。(このことは知っていました)

なお話をなさいましたが、粗末な伽藍が一つだけあつたというわけでは決してありません。たくさん伽藍が立ち並んでいたと経典に記されています。その中、西北の角に「無常院」という名の特殊な建物がありました。特殊なわけは、この建物には病気になるって死を迎える人のみに移されたからです。



この無常院には全部で八つ鐘があり、敷地の四方に白銀でできた鐘、建物の四方には水晶でできた四つの鐘がかけられていたといいます。そして、病者がまさに死なるとする時、その四つの鐘が鳴り響き、病者の死の苦悩を癒して清涼の樂を与えたと伝えられています。この時、鳴り響いた水晶の鐘の音色が「諸行無常」「生滅法」「生滅滅已」「寂滅為樂」であつたことから『平家物語』に「祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり」と詠われたようです。

「諸行無常」という言葉は、総てのもの(諸行)は常でない(無常)ということですが、学問的にいただけば「総てのものは移ろいゆくものであるから永遠にあるものではない」という意味になるかなと思います。私的にはあなたに明日はありません。といただいています。

法語の世界

《原文》

文亀三、正月十五日の夜、兼縁夢にはく、前々住上人、兼縁へ御問ありて仰せられ候ふやう、いたづらにあることあさましく思し召し候へば、稽古かたがた、せめて一卷の経をも、日に一度、みなみな寄合ひてよみまうせと仰せられけりと云々。あまりに人のむなしく月日を送り候ふことを悲しく思し召し候ふゆるの義に候ふ。

『蓮如上人御一代記聞書』二百五十二

《現代語訳》

これは蓮悟さまの夢の記録です。文亀三年一月十五日の夜の夢である。蓮如上人が私にいろいろと質問なさつた後で、「毎日、むなしく暮らしていることを情けなく思う。勉強の意味も兼ねて、せめて一卷の経であつても、一日に一度はみなが集まり、読むようにしなさい」と仰せになった。わたしたちが毎日をあまりにむなしく過していることを悲しく思われて、上人はこのように仰せになつたのである。

2020年秋季彼岸会法要について

秋の彼岸会法要を下記のとおり行います。

記

日時 9月22日(火) 午前10時～
場所 金光寺本堂
勤行 正信念仏偈(草譜)
講師 住職
その他 法要後のお齊については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各自にお渡しし、自宅でお召し上がりいただきます。

また、必ずマスク着用をお願いします。検温して体温が高い、あるいは体調不良の方は参詣をご遠慮ください。

「平和の鐘」撞きます

9月18日(金) 東京・千鳥ヶ淵墓
で「第40回千鳥ヶ淵全戦没者追悼
法要」が催され、この「平和の鐘」
15～13:20に「平和の鐘」の
音が響き渡ります。趣旨に賛同して
金光寺では趣旨に賛同して同じ時間
帯に梵鐘を撞きます。梵鐘を撞
通常撞いている時間に、火災など非常
が鳴りますが、火災など非常事態
知らせするものではありません。
お知らせいたします。

